

# 2001年 卒業研究要旨

## パラサイトシングルの研究

### ー現代青年の特質とライフスタイルへの着眼と通してー

杉山 いつか

この卒業論文は、パラサイト・シングルの形成要因を、現代青年の特質とライフスタイルに着眼して論じたものである。現代青年の自立を妨害し、親元に留まらせている社会的条件とは一体何なのかということについて議論するとともに、筆者自身が行った学生調査の調査結果をもとに、それを検証する。

第1章では、パラサイト・シングル出現の社会的背景を、現代青年の特質とも言えるモラトリアム現象に着眼してみていく。高学歴化にともない、学卒時期・経済的自立・離家・結婚など、成人への移行期に想定されている出来事経験が全体的に引き延ばされた。そして、就職モラトリアム・離家モラトリアム・結婚モラトリアムという現象が生まれたわけだが、パラサイト・シングルはまさに、この3つのモラトリアム現象の典型であると考えられる。

第2章では、家族、特に親子関係に焦点を当て、近代家族の変遷から現代の親子関係について論じ、パラサイト・シングル形成と親子関係との関連性を見ていく。高度経済成長後、サラリーマン・専業主婦家庭が一般化し、子どものために何でもする豊かな親と、それを当然のこととする子どもという組み合わせが出現した。その結果、子どもは親と同居することを寄生（依存）とは思わず、豊かな親元で育ったため、生活水準が落ちることを恐れて、結婚せずに親元に留まり続けるようになったのである。

第3章では、筆者自身が行った学生調査の調査結果をもとに、パラサイト・シングルの形成要因について検証する。今日の大学生の親がどれほど子どものために尽くしているか、ということおよび、それに対する子どもの側の意識や、結婚観など、現代青年の実態を調査・分析し、それらとパラサイト・シングル形成との関連性について考察する。特に、今日のパラサイト・シングル形成は、現代青年の特質の問題だけではなく、親の側の責任とも考えられる。